

# 地域と企業が組織で関わる仕組み『放課後企業クラブ』を通じた「複層メッシュ型」関係人口の創出・拡大プロジェクト

一般社団法人つながる地域づくり研究所

- 「**まちのキャリア支援室**」は、都市部の民間企業と地方自治体を「組織と組織」でつなぐ「プラットフォーム」
- 各地で展開する「**放課後企業クラブ**」の活動を、“伴走支援”する中間支援組織の機能も担う

## ポイント

- ①「組織と組織」という発想と取組内容が新しい
- ②社員のキャリア支援という、企業のニーズに応えることで、従来の受委託や、支援の関係ではなく、企業にとっても課題解決になる、win-winを実現している
- ③自治体とのしっかりとした関係を基盤としており、適確なマッチングや多様な展開につながっている
- ④中間支援組織が伴走支援することで、共創の取組とし、持続的な関係人口化を図ることができる
- ⑤短期間で広がりを見せ、多くの実績が生まれている



## 関係人口の創出・拡大・持続

- ・複数の社員が地域に関わる ・複数の企業が同時に地域に関わる
  - ・地域の多様な主体（自治体、まちづくり会社、各種団体等）に関わる
  - ・多様な身分で関わる、色々なテーマで関わる
- ことにより、“複層メッシュ型”の関係人口をつくり、拡大・持続させていく

## 企業人材の関わり方

### 【パターンA】

- 主に勤務時間外を利用し、社内サークル活動や、自主的、プロボノ的に関わる

### 【パターンB】

- キャリア支援制度等の一環として、一定期間継続的に関わる

### 【パターンC】

- 派遣等の形式で関わる（派遣先、期間、身分等は多様）
- ワーケーションや二地域居住も

## 放課後企業クラブ

- 各自治体ごとに展開
- 自治体職員や地域住民等と企業人材が、フラットで緩やかにつながり、活躍が生まれる
- 顔が見える関係がある

# 「放課後企業クラブ」の展開と活動概要

- 1 複数プロジェクトが進行。Zoom朝会、FBグループ等による関係性の拡大。
- 2 町内高校生と社員のWebでの「哲学対話」。地元NPOと連携。
- 3 民間手法を用いた、市の施策や事業の捉え直し。WGスタート。
- 4 新しい学習プログラムを行う学習塾の企画とビジネスモデルの検討。
- 5 町内高校のキャリア教育支援。行政と教員等との連携。
- 6 地域振興協議会・地域再生推進法人の自立性向上サポート。新規事業検討。
- 7 “稼ぐ市役所”実現のための新しいビジネスモデル構築。市長プレゼン。
- 8 地域住民と協働での地域の魅力発掘&共創まちづくりプロジェクト。
- 9 “未来story”を軸とした関係人口&アイデア発掘。エリア開発のアイデア。
- 10 営業的観点から検討する、企業版ふるさと納税の獲得。
- 11 SDGsの推進等のための持続的な伴走支援のしくみ。
- 12 シニア人材と町職員とのWebセッションによる、気づきや化学反応の見える化による関係性の深化。
- 13
- 14 事務職シニア人材と町職員とのWebセッションによる双方のキャリア支援と「セレンディピティ」の提供
- 15 地域固有の資源や専門人材のスキル等を活かした新たなビジネスプランの創出。地域内外への波及の検討。

